

長門市立日置小学校の児童がシイタケの駒打ち作業を体験

令和6年2月22日（木）、長門市立日置小学校において、3年生児童18名がシイタケの駒打ち体験をしました。

これは、次世代を担う子供たちに、ふるさとの森林の大切さやそれを支える林業の役割について、興味、関心をもってもらうために、「千畳里山の会」（会長：長富隆士）が行ったものです。

はじめに、会長によるあいさつとシイタケの話がありました。

続いて会員の指導のもと、原木に各自電気ドリルを使って穴をあけ、木槌で駒の打ち込みを行いました。

児童たちは、電気ドリルでの穴あけに戸惑いながらも真剣に作業をしていました。

当日は、あいにくの雨で原木の運搬は行いませんでしたが、2年後のシイタケの発生を楽しみにしていました。

作業終了後、児童からお礼のあいさつと、最後に記念撮影を行いました。

千畳里山の会では、今後もこのような森林体験学習を継続し、子供たちの森林に対する意識を高めていくこととしています。



駒打ち体験



集合写真